



# 学校だより

5月 第400号

令和6年4月30日 発行

横浜市立六つ川西小学校

(TEL) 742-6301 (FAX) 743-2394

URL <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mutsukawanishi/>



## かがやき ひびき合える 未来を目指して

学校長

「子どもは、人間関係が家庭と学校を中心とした限られたものになっている。その中で問題が起きると、大人とは比べものにならないストレスが子どもを襲う。とくに思春期には、友だちの存在が大きな意味を持っている。仲間からのいじめや無視によって孤立感を深めることは、大人が考える以上に大きなダメージとなって、心の悩みを引き起こす。時にはそのような不安を隠そうとしていつも以上に元気そうにふるまう場合もある」

文部科学省が示す「教師がしておきたい子どもの自殺予防」の一文から引用しました。

昨年度実施した地域、保護者、教職員が参加して学校課題等を話し合う「のほほの会」でも、いじめの未然防止について議論しました。

参加者からは、「良さを認めるなどして子どもの心を満たす」「些細なことでも話せる関係を築く」「変化に気づき、見逃さないようにする」「リスクを伝え、適切にSNSを使えるようにする」などの意見がまとめられ、それぞれの立場でできることを参加者どうしで考える活発な意見交換の場となりました。

学校では、子どもたちに、お互いを尊重し、思い合うことの大切さを伝えています。

一方で、いじめや嫌なことがあったら、安心して大人に話すようにも促しています。

先生や家族、信頼できる大人に相談することで問題が解決しやすくなることを保護者、地域一体となって伝えていきたいものです。

子どもたちが自由に意見を交換し、感情を表現できる環境を提供すること、子どもたちがお互いを理解し合えるような雰囲気をつくること、さらに、包括的なサポート体制を整備し、孤立感や問題が生じた場合、すぐに大人に相談できる仕組みを整えることが、今、全ての学校に求められています。

学校には、担任や担当、養護教諭、児童支援専任、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーへの相談窓口があります。

孤立感を感じている子どもには、共感できる環境を整えながら教師やクラスメイトが本人の気持ちに寄り添い、支え合えるような関係を築いてあげることが何よりも必要です。

子どもたちがそれぞれ異なる背景や特性をもっていることを大人たちが認め、尊重することで、差別や偏見が排除され、すべての子どもたちが自分らしくありながら、安心して学べる環境が整うのだと思います。

私たち大人は、子どもたちの手本となる行動を示し、対話と理解を重ね、子どもたちの成長を支えていきましょう。

今後も、保護者・地域の皆様のご支援のもと、子どもたちがかがやき、ひびき合える未来を目指し、さまざまな取り組みを進めていくことができるよう、ご協力をお願いいたします。



### 《小中学生への6年間のいじめの追跡調査》

「仲間はずれ、無視、陰口」**された**経験がある・・・9割→8割

**した**経験がある・・・9割→7割

(国立教育政策研究所 2013-2015 → 2021年)

「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」（いじめの定義：2013（H25）年より）